考古学若手研究会 2020　第 1 回研究発表会　要旨

第 1 回研究発表会

日程：　2020 年 8 月 23 日（日）実施
場所：　Zoom

発表 1

「弥生・古墳移行期における鉄斧の保有とその「管理」」

樋口太地[1]　　[1] 三重県埋蔵文化財センター

西日本における工具の鉄器化は弥生時代後期には「完了」したことが木製品研究から明らかにされている。一方、鉄器化が「完了」した社会における人間活動のあり方についても検討が必要であり、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての社会変化に鉄器が与えた影響を探ることは重要な考古学的課題の一つである。しかし、弥生鉄器研究では集落資料を中心に扱っているのに対し、古墳鉄器研究では副葬資料が主な検討対象であり、これらが示す人間活動の性格や局面はそれぞれ異なる。そこで、本発表では鉄製の身と木製の柄から構成される鉄斧に着目し、この両者を併せて取り扱うことで古墳時代集落資料の不足を補いつつ、当該期の集落における鉄斧の分布傾向や共伴遺物の量比から、鉄斧保有のあり方とその「管理」の可能性について言及する。

発表 2

「古墳時代後期における鉄器生産様相―河内と大和の群集墳分析から―」

平井洸史[1]　　[1] 奈良県立橿原考古学研究所

古墳時代後期の鉄器生産については、鉄製品にみる地域性が顕著になる様子から、より分散的な生産体制を想定する場合が多い。その実態に迫るべく、河内地域の群集墳出土鉄製品を対象として分析を行ったところ、群集墳内部の支群間から、群集墳間、そして地域間とレベル別の傾向の違いを見出した。また、河内の地域的傾向を奈良盆地の様相と比較したところ、盆地東部に近く、西部と南部とは異なる様相であることが明らかとなった。

主催：　考古学若手研究会 2020（実行委員：中川朋美（南山大学 博士研究員）、ジョセフ・ライアン（岡山大学 特任助教））
共催：　文部科学省 科学研究費助成事業　新学術領域研究（研究領域提案型）2019 年度～ 2023 年度「出ユーラシアの統合的人類史学 － 文明創出メカニズムの解明 －」A02 班・C01 班　南山大学考古・人類学セミナー「形ノ理：